

今日のトピック 業績は好調だが上値が重い日本株式市場 業績拡大の持続性がポイントに

ポイント1 上値が重い日本株式市場 予想PERは依然割安圏に入ったまま

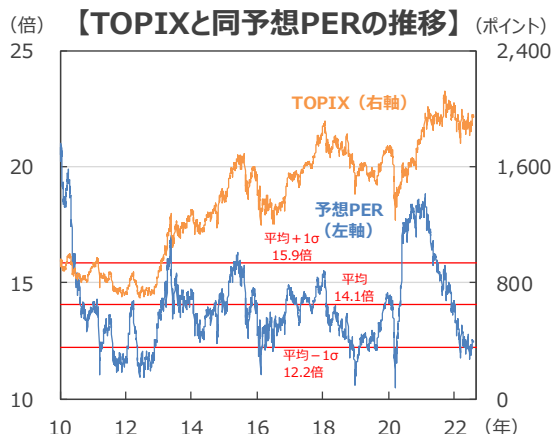
- 7月29日のTOPIXの12カ月先予想PERは12.4倍です。予想PERは2010年以降の平均が14.1倍、1標準偏差下回る水準が12.2倍ですので、TOPIXは割安圏に入っていると考えられます。

ポイント2 4-6月期の企業業績は好調 非製造業が大幅増益

- 4-6月期の決算発表が本格化しています。8月2日現在、営業利益は前年同期比で+4.9%、経常利益が同+18.3%に達するなど決算は概ね好調です。特に非製造業の大幅増益が際立っています。

今後の展開 業績拡大の持続性がポイントに

- 足元の好調な業績に支えられ、22年度の業績見通しは改善傾向となる一方、23年度の業績見通しが下方修正となっています。結果として、23年度の業績見通しも含む1年先予想利益ベースでみたリビジョン・インデックスは7月下旬以降、再び0を下回っています。TOPIXが割安圏から抜け出せない背景の1つとして、業績に対する不透明感の強まりがあると考えられます。
- 23年前半の日本景気は米国景気の悪化の影響を受けて、実質GDP成長率はゼロ近傍まで低下する見通しです。一方、物価もコストプッシュの影響緩和やエネルギー価格の騰勢が一巡することなどから落ち着いていく見通しです。名目ベースの成長率は低下すると思われ、企業業績見通しも23年前半は不透明感が強まるものと考えられます。
- 次第に外部環境の悪化が想定される中、日本株式市場は企業の業績拡大の持続性を確認しながらの展開となりそうです。

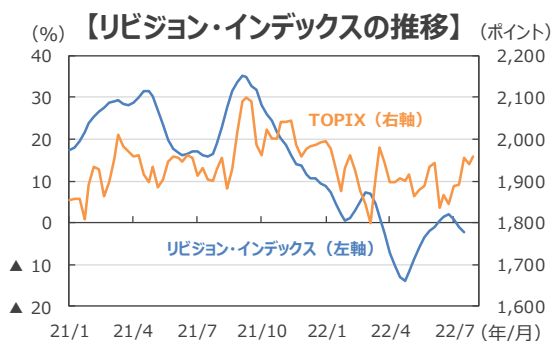


(注) データは2010年1月4日～2022年8月1日。予想PERは2022年7月29日まで。12カ月先予想利益。予想はFactSet。予想PERの平均、±1標準偏差(σ)は2010年1月4日～2022年7月29日で計算。
(出所) FactSetのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【TOPIX採用銘柄の4-6月期決算状況】 (前年同期比、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益
TOPIX採用銘柄	13.4	4.9	18.3	16.1
製造業	9.4	▲6.4	5.3	▲1.0
非製造業	21.5	44.5	59.7	76.9

(注) 2022年8月2日現在。決算進捗率は42%。3月決算、除く金融ベース。
(出所) QUICKのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



(注) データは2021年1月7日～2022年8月1日。リビジョン・インデックスは2022年7月21日まで。週次、4週移動平均。リビジョン・インデックス：当期利益のコンセンサス予想をベースに、(上方修正件数-下方修正件数)÷(上方修正件数+下方修正件数)で計算。当期利益は1年先、I/B/E/S予想。
(出所) Datastreamのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここもチェック! 2022年6月6日「ダークホース」日本株の逆襲 2022年6月2日 魅力的なバリュエーションとなった日本株式市場

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。